

平成26年度 長岡市・三島郡国語部 活動報告

部長 中林 郁郎

1 研究主題

言語感覚を豊かにし、読みを深める授業

2 研究の概要

(1) 研究の方針

- ア 会員相互の実力を高めるために主体的に取り組むものであること
- イ 焦点を絞った、毎日の国語教室に生きる研究であること
- ウ 会員相互が連帯感を持って取り組み、一部の人の研究にならないようにすること

(2) 研究の内容

- ア 研究主題に基づく授業研究
- イ 国語力伸長のための指導法研修

(3) 取組の内容(期日：10月31日(金) 会場：東中学校)

- ア 授業研究会(1年 授業者：久保田ひとみ教諭)
- イ 協議会
- ウ 講演(NPO 法人日本ブッククラブ協会理事長 有元秀文様)

3 研究の実際

(1) 授業研究会

授業者は、説明文の学習を通して、生徒の読む力を身に付けさせたいと考えた。そこで、まず教科書教材「シカの落ち穂拾い」(光村 図書)の本文を読んで、表現の工夫に着目させた。次に、意図的に編集した授業者の自作教材と、教科書本文の表現の違いを発見させ、グループで話し合わせた。生徒からは、図表を効果的に引用していること、具体例を挙げていることなどの指摘があり、説明文の読み解き方について学習することができた。



(2) 協議会

事前に配布しておいた付箋に、良かった点と改善点を記入しておき、グループで相互に意見を出し合った。授業者が誘導し過ぎないように、生徒の気づきを大切にして主体的な発言を促すことが、改善点として挙げられた。

(3) 講演(有元秀文先生)

講演の前半では、小中の連携を図るとともに、中学校ではもっと練り上げが必要であるという指導があった。後半は、参会者全員が生徒役になり、模擬授業を行った。「オオカミと石のスープ」を教材にして、ブッククラブメソッドを用いた国語力向上の方策について、具体的に示していただいた。



4 成果と課題

小学校からの説明文の指導をどのように積み上げていったらよいのか、そのポイントを確認する機会となった。「説明文の勝負どころは構成にある」と、有元先生が指摘されていた。教師が正確に理解し、児童生徒を主人公にする授業づくりが、今後の課題となる。